

(金のエンジェル賞 小学生中高学年の部)

きつね君の絵本

小四・青野 希

きつね君が絵本を見ています。

絵本の中にもきつねの子がいます。

「ぼくみたいだね。」

きつね君はにっこり笑います。絵本の中のきつねの子は、青いズボンをはいています。

「ぼくのは赤。まっかつか。」

きつね君のズボンにも絵本の中のきつねの子にも、ポケットが一つついていきます。

絵本の中のきつねの子のポケットがまるくふくらんでいます。

「何が入っているのかな。」

きつね君はポケットの上をそっとなぞります。きつね君のポケットには何も入っていません。

絵本の中のきつねの子は、かた手にかごを下げ外へ出て行きます。かごの中はからっぽです。

「どこへ行くの。おつかい？それとも花つみ。」

絵本のきつねの子は軽い足どりで歩いています。

「あ、うさぎちゃんだ。」

絵本の中にはきつねの子の他にうさぎの子のすがたも見えます。

「よくにってるなあ服の色まで同じだ。」

きつね君は仲良しのうさぎちゃんを思いうかべます。絵本の中の

きつねの子は何か話しています。

「おはようかな。こんにちはかな。」

絵本には少しだけ字がありますが、きつね君はまだ読めません。絵本の中ではきつねの子とうさぎの子が手をつないで歩いていきます。

うさぎの子もかごをさげています。

「わかった。苺つみに行くんだね。」

二ひきのゆくてには緑の葉がしげり、中に赤い粉々がたくさん見えます。

きつね君は絵本のページをめくります。

絵本の中の二ひきは、草の上に座って苺を食べています。

二つのかごには苺がいっぱい。

「いいなあおいしそうだなあ。」

きつね君は、かごの中の苺をうっとりながめます。

「やわらかで、甘酸っぱくて良いにおいがするんだよ。きつと。」

きつね君は絵本のページをめくります。

おや、今度は熊の子がでています。

熊の子はかた手に空のかごを下げています。

「やあ、熊君。」

きつね君は、声をはずませます。

仲良しの熊君によくにているからです。

でも絵本の中の熊の子は二ひきをにらみつけ大きな口を開けて、何か叫んでいます。

「おお、こわい。」

きつね君は思わず首をすくめてから、

「そうか。苺をみんなつまれちゃって怒っているんだな、熊君。」

熊の子は他の二ひきに向かっていきます。

うさぎの子は今にも泣きそうな顔をしています。

「よせ、熊君。」

「よせたら熊君らしくないぞ。」

苺の入ったかごを持ち上げている所を見ると、

「これをあげるから落ちついて。」

そう言ってなだめているかもしれません。

「あっ！」

きつね君はおどろきの声をあげます。

絵本の中の熊の子はかごをかかえてすたこらにげていきました。

その後ろから二ひきが追いかけていきます。

うさぎの子の目から、大粒のなみだがこぼれています。

「泣くんじやないったらうさぎちゃん。」

きつね君は、絵本を二三次こすります。

「や、や、や、それごらん。」

熊の子がすってんころり、ころんでいます。

どうやら石につまずいたようです。

「だからよせっていったのに。」

きつね君は笑いますが、絵本のきつねの子は手をさしのべています。

泣いている熊の子へハンカチをわたしました。

「どこから出したんだろ。」

絵本のきつねの子のポケットはペチャンコになっていました。

「わかった！ポケットに入れていたんだね。」

絵本の中のうさぎの子はちらばった苺を、せっせと拾い集めています。

きつね君は、絵本のページをゆっくりめくりまわす。
お終いのページです。

絵本の中の三びきは、かごを下げ歩いていきます。
それぞれのかごの中には苺がたくさん入っていて、みんなにここ
こしています。

「よかったね。」

きつね君は、青いズボンをながめます。

ポケットは、元の様子にふくらふくれています。

「よかったね。きつね君きみはやさしいね。」

絵本の中のきつねの子の頭をそつとなぞります。

「じゃあバイバイまたね。」

きつね君はそつと絵本をとじます。

「きつね君！木苺つみに行こう。」

うさぎちゃんと熊君がさそいにきました。

きつね君は空のかごを持ちます。

「あ、そうそう。」

きつね君はズボンのポケットにハンカチをいれます。

「ふくらんだ。」

「行ってきまあす！」

きつね君ははねるような足どりですぐ外へ出て行きました。



画：わたなべさとこ
